

JLL、「レッドプラネット札幌すすきの南」のホテル売買、 総額 17 億 2,500 万円の取引を支援

未占有のホテルにも強い関心を示す海外投資家によるクロスボーダー取引

(2023 年 5 月 11 日にシンガポールから発表されたリリースの翻訳版です)

東京 2023 年 5 月 12 日 – 総合不動産サービス大手 JLL（本社: 米国シカゴ、CEO & プレジデント: クリスチャン・ウルブリック、NYSE: JLL）のホテルズ&ホスピタリティグループは、合同会社 Fortune One が保有するホテル「レッドプラネット札幌すすきの南」について、シンガポールの Heeton Holdings Limited（以下 Heeton）を中心とするコンソーシアム所有の投資会社合同会社なかしまへの売買、総額 17 億 2,500 万円（約 1,300 万米ドル）の取引を支援しました。

本ホテルは 2018 年開業、8 階建、客室数 123 室を有し、札幌のすすきのエリアに位置しています。本取引はホテルが未占有の状態で行われ、今後は日本国内のホテルブランドにリブランドされる予定です。

JLL ホテルズ&ホスピタリティグループ アジアパシフィック エグゼクティブヴァイスプレジデント インベストメントセールス チャーリー・マシルダウィは次のように述べています。「日本に対する急速な観光需要の回復に伴い、ホテルを取得、リブランド、収益化を図る投資家の意欲が高まっています。今回 Heeton 様にとって日本で 3 件目のホテル取得を支援できたことを嬉しく思います」

Heeton 主導のコンソーシアムは、Heeton の子会社である Heeton Invesco Pte Ltd、Hong Heng Company Private Limited、NineCo Investments Pte Ltd で構成されています。

STR グローバル社のデータによると、札幌のリミテッドサービスホテルセグメントは 2023 年に強い回復を見せ、2022 年 3 月累計の RevPAR（販売可能客室数 1 日あたりの売上）で前年同期比 184%増加しました。これは、2019 年 3 月累計で達成した RevPAR の 82%に相当しており、JLL は 2024 年に市場は完全に回復する見込みと予測しています。

Heeton Holdings Limited の CEO イヴァン・ホー氏は「ホスピタリティ業界での実績を有し、成長する企業として、新たな優良ホテル資産を自社のポートフォリオに追加できたことを嬉しく思います。日本の観光需要は、先日発表された大阪の統合型リゾート計画などもあり、長期的にポジティブとみています。国際的なプレゼンス向上を視野に、今後も日本や他の観光地でのホテル投資を継続していきます」と述べています。

JLL の分析によると、他の市場と比べ良好な回復ペースと資金調達環境にある日本のホテル市場は、引き続き投資家の強い関心を集めています。

JLL について

JLL（ニューヨーク証券取引所：JLL）は、不動産に関わるすべてのサービスをグローバルに提供する総合不動産サービス会社です。オフィス、リテール、インダストリアル、ホテル、レジデンシャルなど様々な不動産の賃貸借、売買、投資、建設、管理などのサービスを提供しています。

フォーチュン 500 に選出されている JLL は、世界 80 カ国で展開、従業員約 103,000 名を擁し、2022 年の売上高は 209 億米ドルです。企業目標（Purpose）「Shape the future of real estate for a better world（不動産の未来を拓き、より良い世界へ）」のもと、お客様、従業員、地域社会、そして世界を「明るい未来へ」導くことが JLL の使命です。JLL は、ジョーンズ ラング ラサール インコーポレイテッドの企業呼称及び登録商標です。jll.com

お問い合わせ：広報担当（エイレックス）鈴木・吉岡

電話：03-3560-1289